

未収金目標及び具体取組内容調査書

所属	消防局	担当	総務部総務課計理担当	債権整理番号(3ケタ)	001	債権区分	私債権	債権名	救急資器材に係る損害賠償金
----	-----	----	------------	-------------	-----	------	-----	-----	---------------

1. 令和4年度の修正目標(=未収金残高目標)の達成状況 … いずれかの記号を入力 ※修正目標 … 当年度当初に、前年度末の未収金残高の結果を踏まえて、当初目標を修正したもの

(例)令和4年度修正目標=令和4年度当初に、令和3年度末の未収金残高の結果を踏まえて、令和4年度当初目標を修正したもの

過年度	A	現年度	-	合計(過年度+現年度)	A
-----	---	-----	---	-------------	---

「A」… 目標達成、「B1」… 取組みは予定通り実施したが、目標は未達、「B2」… 取組みを予定通り実施できず、目標も未達、「-」… 当年度中に新規発生した債権のため、前年度時点で目標未設定

2. 未収金の推移(実績及び目標) … 色付け箇所のみ、百円単位を四捨五入した、千円単位の整数 ※当初目標 … 前年度中に設定する当年度の目標

(単位:千円)

	過年度分									現年度分						合計			
	前年度からの 調定繰越額	年度中の 調定減少額	調定額	徴収額	不納欠損額	整理額	徴収率	整理率	未収金残高	調定額	徴収額	不納欠損額	整理額	徴収率	整理率	未収金残高	徴収率	整理率	未収金残高
	ア =前年度ケ	イ =ア-ウ (▲=増加を表す)	ウ	エ	オ	カ =イ+エ+オ	キ =エ+ウ	ク =カ+ア	ケ =ウ-(エ+オ)	ウ'	エ'	オ'	カ' =エ'+オ'	キ' =エ'+ウ'	ク' =カ'+ウ'	ケ' =ウ'- (エ'+オ')	キ'' =(エ'+エ') ÷(ウ+ウ')	ク'' =(カ'+カ') ÷(ア+ウ')	ケ'' =ケ+ケ'
A 令2 実績	359	0	359	0	0	0	0.0%	0.0%	359	0	0	0	0	-	-	0	0.0%	0.0%	359
B 令3 実績	359	0	359	0	0	0	0.0%	0.0%	359	0	0	0	0	-	-	0	0.0%	0.0%	359
C 令4 修正目標	359	0	359	0	0	0	0.0%	0.0%	359	0	0	0	0	-	-	0	0.0%	0.0%	359
D 令4 実績	359	0	359	27	0	27	7.5%	7.5%	332	0	0	0	0	-	-	0	7.5%	7.5%	332
E 令5 当初目標	359	0	359	0	0	0	0.0%	0.0%	359	0	0	0	0	-	-	0	0.0%	0.0%	359
F 令5 修正目標	332	0	332	0	0	0	0.0%	0.0%	332	0	0	0	0	-	-	0	0.0%	0.0%	332
G 令6 当初目標	332	0	332	0	0	0	0.0%	0.0%	332	0	0	0	0	-	-	0	0.0%	0.0%	332

3. 令和4年度決算見込における未収金実績の状況(区分別の未収債権の件数・未収金残高、債務者数) … 未収債権の件数及び債務者数については、色付け箇所のみ、整数で入力。未収金残高については、色付け箇所のみ、百円単位を四捨五入した、千円単位の整数で入力

(残高の単位:千円)

分類	回収債権									整理債権						合計		
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮		⑯	
過年度	1									1							0	1
現年度										0							0	0
未収金残高										332							0	332

【未収債権の件数及び債務者数並びに分類の考え方】
 ① 未収債権の件数は、原則、調定件数とする。調定をまとめて行っている場合は、事実上の債権の件数とする。(例:毎月の定期給付債権の場合、1人の債務者につき、1年間で12件の債権が発生していることとなる。)
 ② 1つの債権に、連帯債務者や連帯保証人が設定されている場合であっても、調査票上、未収債権の件数は1件、債務者数は1人と考え、3の表は、未収債権の状況の進捗が最も進んでいる者の状況で分類する。
 ③ 債務者が死亡した場合で、相続人が複数いる場合、相続割合に従い、債権が相続される(債務が分割して相続される)が、調査票上、未収債権の件数は1件、債務者数は1人と考える。
 それぞれの相続人で、未収債権の状況が異なる場合、3の表は、相続された債権額の最も大きい相続人の状況で分類する。同額の場合は、未収債権の状況の進捗が最も進んでいる者の状況で分類する。
 ※ 未収債権の進捗状況 … ① → ② → ③ → 回収債権: (④ → ⑤) 又は ⑥ 又は ⑦ 又は ⑧ 又は ⑨ / 整理債権: (⑩ → ⑪) → ⑫ | ⑬ → ⑭ → ⑮

令和4年度
決算見込に
おける
債務者数
1
人

令和4年度決算見込における
未収債権の件数(過年度+現年度)
1
令和4年度決算見込における
未収金残高(過年度+現年度)
= 上記2のD(令4実績)のケ
332

4. 令和4年度の取組内容の検証など

	過年度	現年度
取組内容	履行延期の特約等の期限(1年間)が経過することから、面接を行い現在の生活状況を把握し、債務弁済について話し合いを行う。	
取組実績	令和4年6月に本人と面接し、履行延期の特約等の申請書の提出を受け、現在の生活状況を把握し、債務弁済について話し合いを行った。	
課題	生活困窮状態で回収の目途がたないこと。	
改善策	資力の回復を待ち、回収に努める。	

5. 令和5年度の取組内容 … 「1. 令和4年度の修正目標(=未収金残高目標)の達成状況」及び「4. 令和4年度の取組内容の検証など」の内容を踏まえて記載

	過年度	現年度
取組内容	履行延期の特約等の期限(1年間)が経過することから、面接を行い現在の生活状況を把握し、債務弁済について話し合いを行う。	

未収金目標及び具体取組内容調査書

所属	消防局	担当	総務部総務課計理担当	債権整理番号(3ケタ)	002	債権区分	私債権	債権名	救急自動車に係る損害賠償金
----	-----	----	------------	-------------	-----	------	-----	-----	---------------

1. 令和4年度の修正目標(=未収金残高目標)の達成状況 … いずれかの記号を入力 ※修正目標 … 当年度当初に、前年度末の未収金残高の結果を踏まえて、当初目標を修正したもの

(例)令和4年度修正目標=令和4年度当初に、令和3年度末の未収金残高の結果を踏まえて、令和4年度当初目標を修正したもの

過年度	-	現年度	A	合計(過年度+現年度)	A
-----	---	-----	---	-------------	---

「A」… 目標達成、「B1」… 取組みは予定通り実施したが、目標は未達、「B2」… 取組みを予定通り実施できず、目標も未達、「-」… 当年度中に新規発生した債権のため、前年度時点で目標未設定

2. 未収金の推移(実績及び目標) … 色付け箇所のみ、百円単位を四捨五入した、千円単位の整数 ※当初目標 … 前年度中に設定する当年度の目標

(単位:千円)

前年度からの 調定繰越額	過年度分							現年度分							合計				
	前年度からの 調定繰越額	年度中の 調定減少額	調定額	徴収額	不納欠損額	整理額	徴収率	整理率	未収金残高	調定額	徴収額	不納欠損額	整理額	徴収率	整理率	未収金残高	徴収率	整理率	未収金残高
	ア =前年度ケ	イ =ア-ウ (▲=増加を表す)	ウ	エ	オ	カ =イ+エ+オ	キ =エ+ウ	ク =カ+ア	ケ =ウ-(エ+オ)	ウ'	エ'	オ'	カ' =エ'+ウ'	キ' =エ'+ウ'	ク' =カ'+ウ'	ケ' =ウ'-(エ'+オ')	キ'' =(エ'+エ') ÷(ウ+ウ')	ク'' =(カ'+カ') ÷(ア+ウ')	ケ'' =ケ'+ケ'
A 令2 実績		0				0	-	-	0					-	-	0	-	-	0
B 令3 実績	0	0				0	-	-	0					-	-	0	-	-	0
C 令4 修正目標	0	0				0	-	-	0					-	-	0	-	-	0
D 令4 実績	0	0	0	0	0	0	-	-	0	110	30	0	30	27.3%	27.3%	80	27.3%	27.3%	80
E 令5 当初目標	0	0				0	-	-	0					-	-	0	-	-	0
F 令5 修正目標	80	80	0	0	0	80	-	100.0%	0	80	80	0	80	100.0%	100.0%	0	100.0%	100.0%	0
G 令6 当初目標	0	0				0	-	-	0					-	-	0	-	-	0

3. 令和4年度決算見込における未収金実績の状況(区分別の未収債権の件数・未収金残高、債務者数) … 未収債権の件数及び債務者数については、色付け箇所のみ、整数で入力。未収金残高については、色付け箇所のみ、百円単位を四捨五入した、千円単位の整数で入力

(残高の単位:千円)

分類	回収債権									整理債権						合計	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮		⑯
未収債権 の件数										0							0
未収金 残高										0							0
現 年 度 未 収 債 権 の 件 数						1				1							0
未収金 残高						80				80							0

【未収債権の件数及び債務者数並びに分類の考え方】
 ① 未収債権の件数は、原則、調定件数とする。調定をまとめて行っている場合は、事実上の債権の件数とする。(例:毎月の定期給付債権の場合、1人の債務者につき、1年間で12件の債権が発生していることとなる。)
 ② 1つの債権に、連帯債務者や連帯保証人が設定されている場合であっても、調査票上、未収債権の件数は1件、債務者数は1人と考え、3の表は、未収債権の状況の進捗が最も進んでいる者の状況で分類する。
 ③ 債務者が死亡した場合で、相続人が複数いる場合、相続割合に従い、債権が相続される(債務が分割して相続される)が、調査票上、未収債権の件数は1件、債務者数は1人と考える。
 それぞれの相続人で、未収債権の状況が異なる場合、3の表は、相続された債権額の最も大きい相続人の状況で分類する。同額の場合は、未収債権の状況の進捗が最も進んでいる者の状況で分類する。
 ※ 未収債権の進捗状況 … ① → ② → ③ → 回収債権: (④ → ⑤) 又は ⑥ 又は ⑦ 又は ⑧ 又は ⑨ / 整理債権: (⑩ → ⑪) 又は ⑫ → ⑬ 又は ⑭ → ⑯

令和4年度
決算見込
における
債務者数
1
人

令和4年度決算見込における
未収債権の件数(過年度+現年度)
1
令和4年度決算見込における
未収金残高(過年度+現年度)
= 上記2のD(令4実績)のケ
80

4. 令和4年度の取組内容の検証など

	過年度	現年度
取組内容		債務者から一括での弁済が困難との申し出があり、履行延期の特約等での対応を検討し、申請に向けて必要書類の提出を求めた。
取組実績		履行延期申請書の提出を受け、5ヶ月間にわたる分割納付として履行延期承認を通知し、1カ月目及び2カ月目が履行期限内に納付された。
課題		債務者がメール以外での伝達手段を拒否しており、今後の支払い状況について不透明な部分がある。
改善策		必要に応じてメールにて連絡を行い、債務者の資力について確認を行う。

5. 令和5年度の取組内容 … 「1. 令和4年度の修正目標(=未収金残高目標)の達成状況」及び「4. 令和4年度取組内容の検証など」の内容を踏まえて記載

	過年度	現年度
取組内容		履行延期の特約等による分割分納中であり、定められた履行期限内にて納付されるよう管理を行う。

未収金目標及び具体取組内容調査書

所属	消防局	担当	総務部総務課計理担当	債権整理番号(3ケタ)	003	債権区分	非強制徴収公債権(非強公)	債権名	給与の過年度戻入
----	-----	----	------------	-------------	-----	------	---------------	-----	----------

1. 令和4年度の修正目標(=未収金残高目標)の達成状況 … いずれかの記号を入力 ※修正目標 … 当年度当初に、前年度末の未収金残高の結果を踏まえて、当初目標を修正したもの

(例)令和4年度修正目標=令和4年度当初に、令和3年度末の未収金残高の結果を踏まえて、令和4年度当初目標を修正したもの

過年度	-	現年度	A	合計(過年度+現年度)	A
-----	---	-----	---	-------------	---

「A」… 目標達成、「B1」… 取組みは予定通り実施したが、目標は未達、「B2」… 取組みを予定通り実施できず、目標も未達、「-」… 当年度中に新規発生した債権のため、前年度時点で目標未設定

2. 未収金の推移(実績及び目標) … 色付け箇所のみ、百円単位を四捨五入した、千円単位の整数 ※当初目標 … 前年度中に設定する当年度の目標

(単位:千円)

	過年度分								現年度分								合計		
	前年度からの 調定繰越額	年度中の 調定減少額	調定額	徴収額	不納欠損額	整理額	徴収率	整理率	未収金残高	調定額	徴収額	不納欠損額	整理額	徴収率	整理率	未収金残高	徴収率	整理率	未収金残高
	ア =前年度ケ	イ =ア-ウ (▲=増加を表す)	ウ	エ	オ	カ =イ+エ+オ	キ =エ+ウ	ク =カ+ア	ケ =ウ-(エ+オ)	ウ'	エ'	オ'	カ' =エ'+オ'	キ' =エ'+ウ'	ク' =カ'+ウ'	ケ' =ウ'-(エ'+オ')	キ'' =(エ'+エ') ÷(ウ+ウ')	ク'' =(カ'+カ') ÷(ア+ウ')	ケ'' =ケ'+ケ'
A 令2実績		0				0	-	-	0					-	-	0	-	-	0
B 令3実績	0	0				0	-	-	0					-	-	0	-	-	0
C 令4修正目標	0	0				0	-	-	0					-	-	0	-	-	0
D 令4実績	0	0	0	0	0	0	-	-	0	6	0	0	0	0.0%	0.0%	6	0.0%	0.0%	6
E 令5当初目標	0	0				0	-	-	0					-	-	0	-	-	0
F 令5修正目標	6	6	0	0	0	6	-	100.0%	0	6	6	0	6	100.0%	100.0%	0	100.0%	100.0%	0
G 令6当初目標	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	-	-	0	-	-	0

3. 令和4年度決算見込における未収金実績の状況(区分別の未収債権の件数・未収金残高、債務者数) … 未収債権の件数及び債務者数については、色付け箇所のみ、整数で入力。未収金残高については、色付け箇所のみ、百円単位を四捨五入した、千円単位の整数で入力

(残高の単位:千円)

分類	回収債権									整理債権						合計	
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮		⑯
未収債権の件数										0							0
未収金残高										0							0
現年度未収債権の件数	1									1							1
現年度未収金残高	6									6							6

【未収債権の件数及び債務者数並びに分類の考え方】
 ① 未収債権の件数は、原則、調定件数とする。調定をまとめて行っている場合は、事実上の債権の件数とする。(例:毎月の定期給付債権の場合、1人の債務者につき、1年間で12件の債権が発生していることとなる。)
 ② 1つの債権に、連帯債務者や連帯保証人が設定されている場合であっても、調査票上、未収債権の件数は1件、債務者数は1人と考え、3の表は、未収債権の状況の進捗が最も進んでいる者の状況で分類する。
 ③ 債務者が死亡した場合で、相続人が複数いる場合、相続割合に従い、債務が相続される(債務が分割して相続される)が、調査票上、未収債権の件数は1件、債務者数は1人と考える。それぞれの相続人で、未収債権の状況が異なる場合、3の表は、相続された債務額の最も大きい相続人の状況で分類する。同額の場合は、未収債権の状況の進捗が最も進んでいる者の状況で分類する。
 ※ 未収債権の進捗状況 … ① → ② → ③ → 回収債権: (④ → ⑤) 又は ⑥ 又は ⑦ 又は ⑧ 又は ⑨ / 整理債権: (⑩ 又は ⑪ 又は ⑫ → ⑬) → ⑭ 又は ⑮ → ⑯

令和4年度決算見込における債務者数 1人

令和4年度決算見込における未収債権の件数(過年度+現年度) 1
 令和4年度決算見込における未収金残高(過年度+現年度) = 上記2のD(令4実績)のケ 6

4. 令和4年度の取組内容の検証など

	過年度	現年度
取組内容		令和4年度中の回収に向けて、債務者に連絡を取る。
取組実績		当初は連絡が取れており弁済の意思を示していたが、その後連絡が取れなくなった。
課題		債務者と連絡が取れていないこと。
改善策		引き続き、連絡を試みるとともに督促状の送付を検討する。

5. 令和5年度の取組内容 … 「1. 令和4年度の修正目標(=未収金残高目標)の達成状況」及び「4. 令和4年度の取組内容の検証など」の内容を踏まえて記載

	過年度	現年度
取組内容		債務者と早期に面会又は連絡が取れるように努める。